

「神の言葉に立つ」
マタイによる福音書 26 章 47-56 節

2022.11.6

●**アウトライン**

1. 剣をさやに納めなさい
 - ・「祭司長たちや民の長老たち」による苦しみ
 - ・「剣をさやに納めなさい」と語り、抵抗しなかった理由
 - ①剣を取る者は、剣で滅びるから。
 - ②神の言葉が実現するため。
 - ・剣を用いない神の救いの方法
 - ・イエス・キリストの十字架による罪からの救い
2. 神の言葉に立つ
 - ・神の言葉が実現するために、苦しみの道を通られたキリスト
 - ・神の言葉に従うゆえの苦難
 - ・しかし、私たちの神の言葉に立つ歩みによって、神に御国は作り出されていく。
 - ・マルティン・ルターの言葉「我ここに立つ！」

●**聖書箇所**

【ヨハネによる福音書 18 章 10 節、新約聖書 204 ページ】

「シモン・ペトロは剣を持っていたので、それを抜いて大祭司の手下に打ってかかり、その右の耳を切り落とした。手下の名はマルコスであった。」

【ルカによる福音書 22 章 51 節、新約聖書 155 ページ】

「そこでイエスは、『やめなさい。もうそれでよい』と言い、その耳に触れていやされた。」

【マタイによる福音書 5 章 38-39 節、新約聖書 8 ページ】

「あなたがたも聞いているとおり、『目には目を、歯には歯を』と命じられている。しかし、わたしは言っておく。悪人に手向かってはならない。だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。」

【ペトロの手紙一 2 章 20-25 節、新約聖書 431 ページ】

「罪を犯して打ちたたかれ、それを耐え忍んでも、何の誉れになるでしょう。しかし、善を行って苦しみを受け、それを耐え忍ぶなら、これこそ神の御心に適うことです。あなたがたが召されたのはこのためです。というのは、キリストもあなたがたのために苦しみを受け、その足跡に続くようにと、模範を残されたからです。『この方は、罪を犯したことがなく、／その口には偽りがなかった。』ののしられてもののしり返さず、苦しめられても人を脅さ

ず、正しくお裁きになる方にお任せになりました。そして、十字架にかかって、自らその身にわたしたちの罪を担ってくださいました。わたしたちが、罪に対して死んで、義によって生きようになるためです。そのお受けになった傷によって、あなたがたはいやされました。あなたがたは羊のようにさまよっていましたが、今は、魂の牧者であり、監督者である方のところへ戻って来たのです。」